

卒業時 OSCE に関する全国医学部長病院長会議執行部としての見解

平成 27 年 2 月 18 日

卒業時 OSCE あるいは Post Clinical Clerkship OSCE (PCCOSCE) について

○平成 23 年度、全国医学部長病院長会議から発表された「医師養成の検証と改革実現のためのグランドデザイン」においても、卒業時到達目標として、初期研修を開始するのに足る臨床技能と態度教育がなされていることを評価するために、「医師国家試験として OSCE が導入されるか否かにかかわらず、各大学による自主的、自律的な共用試験 OSCE のような形での卒業時 OSCE を行うべきである」と記載されている。これは臨床実習後の卒業時の到達目標の一つであり、それを卒業要件の一つとすべきであり、これによって医学部・医科大学卒業生の質を社会に保障することとなる。

○平成 26 年度に全国医学部長病院長会議と共用試験実施評価機構との 2 回の意見交換会が行われた。その中で、共用試験実施評価機構から「現段階では 6 割程度の大学においてしか行われていないが、全国医学部長病院長会議等も卒業時 OSCE の導入を希望している。その実施時期の統一、モニター確保、外部評価者確保等、解決すべき課題も多いが、OSCE 実施のノウハウを持っているのは、現段階では共用試験実施評価機構しかないので、機構内に部会を設置し、本格実施までには 5 年以上かかると思われるが、全国医学部長病院長会議および各大学と協力して、出口の質保証としての標準化した卒業時 OSCE を実施する方向で考えたい」との表明があった。

○全国医学部長病院長会議としては、卒業時 OSCE が卒業生の質保証という観点から重要であると認識している。現時点では医師国家試験に OSCE を導入するのではなく、まずは各大学が自主的、自律的に卒業時 OSCE を共用試験実施評価機構と協力しながら行い、最終的には全大学が共通の水準で卒業時 OSCE を実施するよう努力する。

全国医学部長病院長会議執行部

会長 荒川 哲男
副会長 甲能 直幸
顧問 小川 彰
顧問 森山 寛
顧問 別所 正美
相談役 神保 孝一
相談役 嘉山 孝正
相談役 寺野 彰
相談役 河野 陽一
相談役 岡村 吉隆